



地域が教室、地域の方が先生

11月28日(金)、「まるで料亭に来たみたいやな～」私が子どもたちに発した言葉です。4年生の子どもたちは、11月12日(金)に、「悠遊会」の皆様のご協力のもと、竹製のお皿や湯飲み作り挑戦しました。熟練の手ほどきを受け、竹の感触を楽しみながら、世界に一つだけの器が完成しました。そして、その器を使って待ちに待った調理実習を行うことになりました。「自分たちで作った器で何を食べる?」と子どもたちでアイデアを出し合い、メニューはうどん、そば、素麺に決定。青々とした竹の器に盛られた麺は、まるで高級料亭のような風情です。「いつもの何倍も美味しい!」と、どの子も笑顔で完食しました。

11月10日(月)には、町内の竹炭製造工場「是松商店」を見学させていただきました。ここでは、竹炭の製造工程を見学するだけでなく、「竹の町・福井」の復活に向けた熱い取り組みについてお話を伺いました。また、竹炭が炊飯や水槽の浄化、消臭など、生活の様々な場面で役立っていることを知り、子どもたちは地域の資源の可能性に目を輝かせていました。

私たち学校が何よりありがたく、そして誇りに思うのは、こうした活動を支えてくださる地域の「協力体制」です。いつもお願いしても、「子どもたちのためなら」と快く引き受けてくださる。忙しい合間を縫って、準備をし、笑顔で迎えてくださる。その温かな眼差しと、惜しみない愛情に支えられ、子どもたちはすくすくと育っています。

自分たちの住む町には、こんなに素敵な大人がたくさんいる。その安心感と誇りが、竹の器の料理を「料亭の味」に変え、子どもたちの心の栄養となっていくのだと感じています。地域の皆様の温かいお力添えに、心より感謝申し上げます。



竹炭工場の見学



悠遊会の皆さんと竹工作



竹製の器完成



竹製の器に盛り付けて調理実習